

二〇一七年度 日本語・日本文学科 卒業研究題目一覧書

- 中島敦『古譚』論
井村 紗和子
- SF小説の中の生命論
小山田 香
- 上田秋成論
安田 愛
- 『三国志』の魏蜀呉三書における戦いの記述について
相川 奈々海
- 閻魔とはなにものか
青木 思央梨
- 津島佑子論
天野 咲子
- 『三国志』の創作物と正史における人物像の対比
池淵 悠
- 陸游の晩年の詩について
石川 美穂
- 文学の中の戦後家族
石田 瑞絵
- 泉鏡花『春昼・春昼後刻』論
稲川 菜摘
- 中世和歌における「にほふ」と「かをる」の用法について
今田 望音
- 『天草版伊曾保物語』における「つかまつる」と「いたす」の研究
岩城 可南子
- 戦争文学論
内山 香菜美
- 川端康成『掌の小説』における夢幻
大塚 優希
- 童心論
岡部 彩乃
- 千葉省三と新美南吉
『日本霊異記』における転生について
三浦綾子『氷点』論
佐藤泰志論
- 『雀の報恩譚』について
谷崎潤一郎論
福永武彦論
- 村上春樹『1Q84』論
推理小説から見た戦後日本の文化と社会
寄宿舎文学論
七夕伝承と牛
日韓における談話行動の比較研究
村上春樹論
貴船神社の橋姫
月と不老不死
『女性に関する十二章』論
桜庭一樹論
- 『源氏物語』における『白氏文集』引用の考察
厳島信仰における女性の役割
- 小田 笑香
小野 静枝
柏原 理沙
嘉屋 茜
川口 紗季
川戸 ほの花
菅野 美咲
喜久川 智世
北川 穂波
木村 優芽
絳谷 小雪稀
轡田 ゆり子
熊谷 朋美
黒田 瑞樹
小林 華衣
小林 真奈
古茂田 江里奈
齋藤 真衣
佐々木 梨乃

宮沢賢治『やまなし』論

幾原邦彦『輪るピングドラム』論

安部公房論

『源氏物語』論

『西鶴諸国ばなし』巻五の五「執心の息筋」論

『日本霊異記』における殺生禁断

近松門左衛門論

原爆文学論

『枕草子』における中宮定子像

寺田寅彦論

『浮世床』における呼称について

『細雪』論

日本近代文学と良妻賢母イデオロギー

古代文学における桃について

『きのふはけふの物語』における言語遊戯について

古典世界における犬の諸相

安部公房『砂の女』論

和歌の恨恋の表現について

村上春樹初期三部作論

『日本霊異記』における地獄

民藝論

佐藤 彩友美

佐藤 夏貴

佐藤 風花

佐藤 芙柚

佐藤 優芽

佐野 美晴

穴戸 幸希

篠原 奈那子

島田 莉奈

菅原 英里子

杉山 楓

関澤 香織

瀬ノ上 綾花

高橋 ちひろ

竹本 葵

田崎 未樹

溪口 敏恵

田村 愛美

寺尾 佳乃

徳山 愛実子

仲野 有香

『春雨物語』「血かたびら」における藤原薬子像

アイヌの表象

正宗白鳥論

『椿説弓張月』における崇徳院像

大江健三郎論

北海道方言話者の助動詞「ゝさる」の使用実態

『論語』における問答の性質

狂言における呪文について

ファンタジーの寓意性

若者語の研究

安部公房『他人の顔』論

〈行きて帰りし物語〉論

『平家物語』における武士の詞について

『懐風藻』における七夕詩について

『懐風藻』における宴について

キリシタン版『さるばとーる・むんぢ』における表記研究

『日本霊異記』上巻第三「縁考

宮沢賢治論

大江健三郎論

宮沢賢治「銀河鉄道の夜」論

古典作品における夢

西野 朱音

野田 夏未

能戸 美也

橋場 朱里

橋本 奈緒

秀 舞子

藤田 諒子

堀 絢音

堀内 琴絵

本田 朱里

前田 妃織

松島 由依

松田 遥

松田 萌香

松橋 ひかる

宮川 咲耶子

村雲 深尋

八木 映里香

矢尻 佳澄

山本 菜摘

横地 妃咲

上代文学における雷について

坂口安吾『明治開化安吾捕物帖』論

横山 愛子
吉沢 有美子

【クラスター卒業研究】（ ）は所属学科

〈学科内クラスター〉

罪人は愛徳によって愛されるか

——トマス・アクイナスの愛徳論——

（日文）水石 睦月

〈他学科からの提出〉

文化総合学科から

児童文学——小川未明の作品から——

ラス・カサスと自然奴隷説

——新大陸におけるインディアス問題を巡って——

（文総）八代 真愛

（文総）竹内 彩

〈他学科への提出〉

文化総合学科へ

障害／健常の分断を超える合理的配慮

——障害者・企業・就労移行支援事業所の三者関係を事例に——

（日文）宮武 真子

恨（ハン）の文化から見る韓国の国民性

（日文）宮本 七瀬